

津久井湖誕生 —相模川総合開発共同事業史—

現在様々な役割を担っている津久井湖が誕生するまでには、先人の尊い汗の結晶と、多くの関係の方々の理解と協力がありました。

水道の水源としての相模川

相模川は、その源を富士山の山麓に発し、山梨県内では桂川と呼ばれ、神奈川県に入り相模川と名を変え、道志川及び中津川等の支川を合流して、県の中央を流下し相模湾に注いでいます。

古くよりこの川から生活用水、舟運、観光、漁業など、数々の恩恵を受けてきました。



空から見たダム建設前の風景



ダム建設前の相模川



ダム建設前の風景(投網風景)

新たな水源確保の必要性

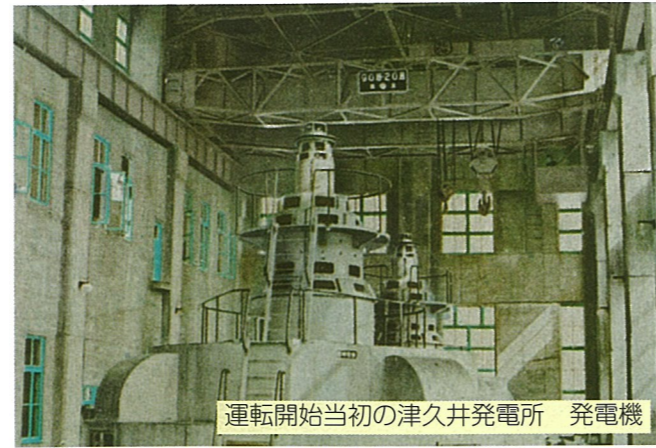
昭和13年に着手した相模川河水統制事業は、戦後昭和24年にすべての施設が完成し、相模ダムが築造されました。その後、2回にわたって行われた増強事業によって、県下の都市用水の需要をほぼ完全に満たしてきました。

また、相模・津久井両発電所を建造することにより、多大な多目的効果を収めてきました。

しかし、人口の急増、生活様式の近代化、産業の進展に伴う工場の新設・拡張等によって、生活用水や工業用水の需要は急速に増大しました。このため、既存の水源では不足をきたすことが予想され、早急に新たな水源確保の対策を講じることが必要となりました。



建設当時の相模ダム



運転開始当初の津久井発電所 発電機

ダム建設の計画

このような事態に対処するため、昭和28年からは城山ダムを中心とした相模川総合開発についての調査に着手しました。

昭和35年には、新規水源開発の事業について、神奈川県、横浜市、川崎市及び横須賀市の共同事業として「相模川総合開発共同事業」が発足されました。

城山ダムを基幹とする施設の建設は、共同事業者より委託された企業庁が実施することとなりました。



ダム建設前の相模川



城山ダムサイト施工前

水没移転について

事業の実施にあたっては、事業地及び相模川沿岸地域とその住民の方々の深い理解と協力が必要でした。ダムの建設によって、当時の津久井郡城山町、津久井町及び相模湖町3町の一部である11地区が水没することになりました。

このうち8地区に280戸の水没世帯があり、ほかに小学校1校、寺3寺などがありました。

項目	種別	単位	数量	項目	種別	単位	数量	
世帯	水没	世帯	280	建築物	住宅	坪	7,141	
	土地勘系	世帯	512		非住宅	坪	5,780	
人員	水没者	人	1,435	公共建物	学校	校	1	
土地	田	坪	39,314		寺	寺	3	
	畑	坪	180,223		神社	社	2	
	宅地	坪	49,540		農協	所	1	
	墓地	坪	1,928	県道	m	3,297		
	山林その他	坪	426,652	町村道	m	3,066		
立竹木	用材林	本	95,535	道路付替	橋梁	か所	4	
	薪炭林	坪	239,484		延長	m	868	
	竹林	坪	13,130	特殊補償	漁業権	件	1	
	果樹	本	5,568		電柱移転	件	2	
	特用樹	坪	21,343		送水管付替	件	1	
	特用樹	本	40,052					
	鑑賞樹	本	27,097					